

橋 池 (たちばないけ)

位 置 図



諸 元

貯水量	555.9 千m ³
満水面積	14.4 ha
受益面積	68.4 ha
堤高	11.6 m
堤長	280 m

高松市国分寺町の西南端、県道綾川国分寺線沿にある橋池は貯水量とかんがい面積においては町内一番の大きさを誇っています。このため池がいつ造られたのかははっきりしませんが、奈良時代には既にできていたようで、その位置は現位置よりもっと下流に堤防を築き、浅くて広い池だったようです。

ところが、この池は浅い池でありながら、ゆる（取水施設）付近は何度築いても決壊するので大変困っていました。寛永年間(1624～1645年)の大干ばつの年、前年に堤防が切れていたため、池には全く水が溜まらず、一粒の米もとれませんでした。時の領主生駒高俊は家臣西嶋八兵衛に命じて現在地に池を築造しましたが、この地の地名が橋だったので、橋池というようになったと伝えられています。下流の池跡は、広大で肥沃な新田が約六〇町歩も開拓されたといわれています。

しかし、この新田開拓によって更に水不足をきたし、岡内家七代彦左衛門が文政4年(1821年)に羽間池より橋池まで約二^{キロ}の羽間掛井手（導水路）を掘り、羽間池の余水を導水することとしました。せっかく開拓した掛井手も距離が長く、勾配がほとんどない状態で、思うように導水できないため、しだいに使われなくなりました。

その後、江戸時代に3回（1794年、1832年、1856年）池の改修がなされた記録がありますが、それ以降は、大規模な工事は行われませんでした。今のため池は、昭和30年度（1955年）から平成20年度（2008年）までに各種事業により全面改修が行なわれ、立派なため池となっています。

また、池の南側に野球場・テニスコート・プール・屋内ゲートボール場など、あらゆる年代層が競技を楽しめる橋ノ丘総合運動公園があり、市民はもとより県内スポーツの場として活用されています。



橋 池



橋ノ丘総合運動公園と橋池